

第29号 平成28年11月30日発行

藍すまいる

平成19年3月19日 創刊

伊達市障がい者総合相談支援センター「あい」

差別なき社会をどうつくるか、 問い続けよう 私たちの責任

平成28年4月1日より、障害者差別解消法がスタートしました。その4ヵ月後の7月26日、相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」で、重度の障がい者19人が殺害され、27人が重軽傷を負うという凄惨な事件が発生しました。この報道にあたって神奈川県警は、被害者全員の名前を匿名で発表しています。

殺害の動機について、植松聖容疑者は、5ヶ月前まで「やまゆり園」で職員として働いていた経験から、「保護者の疲れきった表情」を見て、「障がい者は不幸を作ることしかできない」と考え、そして「いなくなってしまうといい」と思い、「安楽死」を実行したと述べています。

また、神奈川県警は、被害者全員について「A子さん19歳」「S男さん43歳」と匿名表記にした理由について遺族から「特段の配慮をしてほしい」という強い要望があり「知的障がい者の支援施設であり、遺族のプライバシー保護等の必要性が高い」と判断したと説明しています。

さらになぜ匿名を希望したのかという理由について、ある遺族は「家族に障がい者がいることや、施設にいることを近所に隠してきた」と述べています。

障がい者に対して「いなくなってしまうといい」という倒錯した差別や偏見のもとに、大量殺戮を行った容疑者を絶対に許すことはできません。それと同時に、遺族のプライバシー保護を最優先して、匿名報道をした神奈川県警にも、家族に障がい者がいることを隠してきた遺族の中にも「本人不在」、もっといえば「障がいのある本人に対する差別や偏見」というネガティブな障がい観があることは明らかです。

ピープルファースト北海道の元会長の土本秋夫さんは、19人の犠牲者が匿名とされていることについて「亡くなくても一人の人間として扱われていない。差別されているという感じがするし、一番つらい」と述べています。

世間一般の障がい者に対する「恵まれないかわいそうな人たち」という差別意識や偏見には根強いものがあります。しかし、全国手をつなぐ育成会連合会の機関紙「手をつなぐ」の9月号をみると、「娘のお陰で心豊かな人生を送れている」「家族の大切さは障がいのある・なしに何の関係もない」という実名のメッセージが並んでいます。障がいのある人も・ない人も、一人一人に自分の人生があり、それぞれの物語があるのです。

障がい者差別解消法への取り組みは、まず私たち自身の中にある差別意識を問い続けることから始まります。

胆振圏域障がい者総合相談支援センター るびなす
センター長 小林 繁市



リ

し

ー

ト

ー

ク



第 27 回

合同会社自然農業社 代表 小田 大介さん



私たちの仕事は農業です。農業とは植物を育てることです。植物を育てるといことは、自ら育とうとしている植物に、育つのに適した環境を整えてあげることだと私は思っています。それぞれの植物の本来持っている特性を知り、生育の過程をよく観察し、何が必要か何を求めているかを考え、ふさわしい世話をしていくことです。ただ、あくまで育つのは植物自身です。そして会社で人を育てるといことも基本は同じだと思っています。育つのは本人自身。育てるために出来ることは、自ら育つことが出来る環境を整えること。

昨年 4 月、互いに育て合える会社にしたいとの思いを持って、合同会社自然農業社は開業致しました。美味しい野菜を育てながら、皆で育っていく会社を目指します。どうぞよろしくお願い致します。



今回は、胆振圏域障がい者総合相談支援センター るびなす 國松 直人さん を予定しております。

地域サロン
ワンコインランチ

10月15日、生活介護事業所「あつま〜る」にて、『地域サロン ワンコインランチ』が開催されました。当日は 16 名の方が参加され、500 円という格安料金ながら、秋の食材を用いた豪華な食事が提供されました。

メニュー。

- ☆冷やし手打ちうどん (大根おろし、大葉、オクラ)
- ☆天ぷら (秋茄子、かぼちゃ、きのこ、伊達鶏)
- ☆かやくご飯



参加して下さった方々からのお話。

- ☆きのこご飯、美味しかった。暖かい飲み物欲しかった。他の方々とゆっくりお話しながら会食したかった。夜より昼間の方が良かった。
- ☆今回はお昼の時間帯で参加しやすかった。500 円では普通なら食べられないようなボリュームと美味しさで、楽しく幸せな時間を過ごせました。来年も楽しみにしています。
- ☆今回は和食でした。これで 500 円でいいの?と思うくらいの味と量でした。地元の食材をつかった天ぷらの盛り合わせに、うどんもモチモチしていてつけ汁がほどよく絡んで、出汁の味とベストマッチでした。大変美味しかったです。次回もまた、参加したいです。

沢山の方々のご協力ありがとうございました。

一般社団法人

伊達の風








伊達の風とは、“多くの障がい者が、安定した収入を得られるように”
そして“障がい者がより豊かな生活を送ることができるように”
という目的で活動しております。

伊達の風は平成28年8月1日より、就労継続支援A型事業所として、伊達市長和町に開設しました。開設までに、またこれまで、皆様のご協力を頂いたこと心より感謝いたします。今後とも、皆様のご協力・ご意見を頂きながら、この施設で利用者と共に作業に励んでいこうと思っております、よろしくお願いいたします。

伊達の風では、こんな作業を行っています。



-  1、薪ストーブ用の薪を作ってます。
-  2、ピザ釜用のピザ薪を作ってます。
-  3、着火材を作ってます。
-  4、清掃業をしています。
-  5、その他、自分たちでできる仕事を探して行います

1人1人の個性に着目した支援計画を作成し、障がい者の皆さんが体力と責任感、協調性を培い一般就労先で活躍できるよう努力していきたいと思っております。

問い合わせ先
一般社団法人 伊達の風
伊達市長和町 243-2
Tel/Fax:0142-82-6295

Mail:fwb.datenokaze@aroma.ocn.ne.jp



ハッピーサークルの活動

回復者クラブ「ハッピーサークル」では、様々な活動を行っています。今回は、先日行われた「調理実習」・「社会資源勉強会」の様子をご紹介します。

～社会資源勉強会～

伊達市の「無料講座」を活用し、社会資源勉強会を実施しました。今回は、伊達市障がい福祉系の代田係長を講師としてお招きし、利用できるサービスの情報提供や日常生活における困りごとについての意見が交わされました。真剣さの中にも自然と笑いが起こる場面もあり、とても有意義な時間となりました。

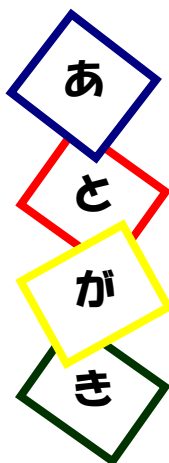


調理のイメージ図 (相談員 作)

～調理実習～

男性が多い「ハッピーサークル」ですが、毎年2回調理実習も行っています。今回は、キノコの炊き込みご飯、イモ団子のけんちん汁、キュウリの漬物、柿・梨の豪華ラインナップに挑戦しました。普段は食べることに専門の方も多いようですが、皆さんの底力とボランティアの伊藤さんの絶妙なサポートもあり、無事完成!!!最後は味を噛みしめながら、ゆっくりと食事を楽しみました。

皆さん、和気あいあいと活動されています。また、新しいメンバーの加入も心待ちにしておりますので、興味のある方は「相談室あい」までお問い合わせください。



「ここ最近1年の経過が非常に早く感じるようになって、体力の低下を実感している今日この頃ですが、今年も残すところわずか、間もなく新しい年を迎えようとしております。

何といっても今年1番のニュースは、日本ハムファイターズの大躍進(個人的なニュースですが)。6月には、最大11・5ゲーム差と(ホークスに)離され、相当熱心なファイターズファンの私でも、今年は厳しいかなーと思っている矢先のリーグ制覇。さらにさらに、クライマックス突破と日本シリーズ優勝のおまけつき。特にクライマックスから日本シリーズにかけては、合計で3回も札幌ドームに足を運ばせてもらいまして、大いに盛り上がったのを思い出します(見に行った試合は1勝2敗と負け越してしたが...)。

今年のファイターズには、感動と勇気と元気を与えてもらいましたので、今後の生活の糧に頑張っていければと思っています。< >

